



International Institute of Multi-Cultural Studies

特定非営利活動法人

国際比較文化研究所

■ Newsletter ■

Vol. 25. No.4. 2025年3月号

## 国際比較文化研究所 (International Institute of Multi-Cultural Studies) ～創立 25 年に思う～

会長・IIMS 所長  
太田敬雄



私の中には「もう25年か」という思いと「まだ25年か」という思いが複雑に交差しています。私は短いと感じるのですが、IIMS にとっては長い年月でした。その間、実に多くの方々に支えられたおかげで今日が有ることを考えると感謝にたえません。

この機に、今日の IIMS を支えて下さった立場も経験も違う大勢の皆さまからお言葉をいただきました。6 ページにわたる皆さまのお言葉は今後 IIMS が育っていく上での大事な指針として次の 25 年に向かいたいと思います。

「自分も一言！」と思って下さる方、ぜひお聞かせください。次号に掲載致します。人類が心からお互いを認め合う明日を目指して共に歩みを進めたいと思います。(200 字～300 字でお願いします。)

魅力度ランキングで常に他県と最下位を争う群馬県が、先日発表された「移住希望地アンケート」で国内 1 位となり、我々グンマーはおおいに盛り上がりました。自然の多さや災害の少なさなど、幸せに暮らせる環境と評価されたようです。未開の地と笑われ続けた群馬県ですが、ついに時代が追いついてきたのでしょうか。

さて、25 年前の日本はバブルの面影も残り、まだまだ見栄と贅沢の時代でした。それから私たちは災害にパンデミック、喪失と変革を経験し、生活や心身のバランスなど真剣に考えはじめました。「幸せとは?」「生きるとは?」と問うて変化したりしなかったりの世界や価値観。今、皆さんにとっての幸せとは何でしょうか。

激動の四半世紀でしたが、IIMS が掲げる平和への祈りは変わりませんでした。「幸せになりたい」「幸せであって欲しい」このシンプルな願いを、これからも皆さんと共に紡いでいきたいです。

理事長  
Manapal&IIMS 代表  
太田琢雄



### ◆ 2025 年度総会のご案内 ◆ 2025 年 5 月 24 日 (土) 14 時～15 時

今年度の総会もオンライン(ZOOM)での開催といたします。正会員の皆さまはメール・LINE などにて 5 月 17 日(土)までに出席をご連絡下さい。

<議題> 2024 年度事業報告、2024 年度会計報告、監査報告  
2025 年度事業計画、2025 年度予算

【賛助会員、学生会員の皆様】 総会の陪席や懇親会へのご参加も大歓迎です。  
参加ご希望の方は 5 月 17 日までにご連絡下さい。

私は“ひげじい”太田君とは高校時代玉川学園で3年間クラスメートでした。先日、83歳のお祝いのクラス会を開きました。60年ぶりに会う友達もいましたが直ぐに昔の話に花が咲きました。若い日の友達はかけがえのない交わりであったと思います。培った友情は永遠です。

母校の“おやじ”小原国芳先生は「真理(まこと)の平和建設は相互の理解からである」とおっしゃっていました。国際比較文化研究所はまさに相互の理解と友情を育む活動を行っていると思いました。平和は他者の文化の違いを乗り越えた理解と思いやりと人と人との繋がり(友情)が大事だと思います。



阿部洋一  
IIMS 会員



伊藤愛 SET 共同  
リーダー/’25 多文  
化マラン引率

大学入学とほぼ同時に IIMS の多文化交流活動を知り、高校生のころから憧れていた「多文化交流」に飛び込みました。最初は苦勞も多かったのですが、そこで出会った友人や仲間、OG・OB の先輩方や海外出身の方々と関わっていくなかで、私は大きく成長することができました。新しい活動をしていくごとに、バックグラウンドや考えが違う新しい友人たちと出会い、価値観を共有できる場が本当に素敵で、友情の輪を広げる多文化交流にどっぷりはまっています。私は最終学年を迎えようとしていますが、後輩たちが次々と多文化交流のとりこになっています。その調子で友情の輪を広げて、何気ない日常の世界平和に繋がっていかれたらと願っています。多文化大好き！

## 国際比較文化研究所 (International Institute of Multi-Cultural Studies)

創立 25 年を記念して皆さんから感想をいただきました

敬称を略させていただきます。

SET は Student Exchange Team の略、IIMS は研究所英名の略です。



岩井均  
安中市長

国際比較文化研究所の設立 25 周年、心よりお祝い申し上げます。この四半世紀にわたり、異なる文化の理解と交流を深めるための貴重な活動を続けてこられたことに尊敬の念を抱きます。

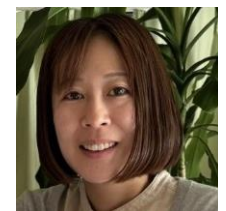
様々な文化や価値観を持つ人々が共存する現代社会において、国際理解はますます重要なテーマとなっています。多様な視点を持つ人々が集い、知識を共有し、国際的な架け橋となる役割を果たしてこられたことは、大変意義深いものです。

今後もさらなる発展を遂げられ、文化の多様性を尊重し合う平和な社会の実現に向けて、より一層大きな役割を果たしていかれることを願っております。

2009 年夏に多文化交流 in マランに参加して以来、多文化交流の虜になり、振り返ると多文化交流を通してたくさんの友だちと豊かな思い出がいっぱいです。社会人となった今もこうして形を変えながらも関わらせて頂けることに感謝です。

多文化交流の仲間のことはいつも心にあって、再会するたびに心温まる関係です。大人になっても交流が続いていて、あの数日間がいつもはじまりだったなあとしみじみ思います。これも多文化交流の醍醐味のひとつだと思っています。

これからも、世界平和という大きな夢に向かって、温かい交流が続いていきますように。国際比較文化研究所のさらなる発展に寄与できればと思います。



岩丸愛  
IIMS 理事



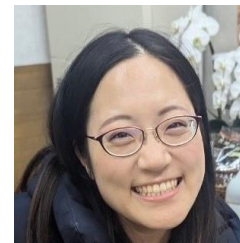
ウラスティ・  
アンレン  
北海道東川町  
国際交流員

IIMS 創立からの 25 年間、私たちが目指してきた「違いを受け入れ合える平和な社会」の実現に向けて、その中で共に歩んできたことに深い感謝と誇りを感じています。振り返ると、IIMS が開催していた「多文化交流」は、私の人生におけるターニングポイントでした。「多文化交流」に参加したおかげで、諦めかけていた自分の夢を再スタートすることができました。そして、その活動を通じて仲良くなった方々と今も変わらず繋がりが続いています。さまざまな「違い」の壁を乗り越え、多様性を尊重し、互いに理解し合う仲間ができました。このご縁は何にも代えがたい財産です。

これからも、この活動が共生と平和の価値を伝え、広めていけるよう、柔軟かつ力強く前進したいと思います。

先日の 25 周年記念の同窓会に参加させていただきました！多文化交流の企画運営と一緒に携わった同志、現役で係るスタッフたちなど、世代や国籍を超えた出会い、再会に感動し、心の底から楽しんだ時間でした。

私は現在、食事ボランティアとして多文化交流に関わっております。こうして卒業生が縁を保ち続けていられるのも、多文化交流に関わった全ての方々が「違いを認め合う心」に共感してきたからこそだと思います。先日の「多文化交流 2025 年冬」でも、参加者がこの縁を大切にしていきたいという想いを抱いている様子を見て、多文化交流の根はこれからも脈々と続いていくのだと実感しました。これからも多文化交流の種を蒔き続けることができるよう、共に歩んでいきます！



江口綾夏  
会社員  
IIMS 理事



大森昭生  
共愛学園前橋国際大学学長

NPO 法人国際比較文化研究所 (IIMS) が設立以来 25 年間、多様性と異文化への理解を尊重し、平和な社会づくりを目指して活動してこられたことに敬意を表します。また、本学の学生たちもその活動の輪に加えていただき、人生を彩る経験をさせていただいていることに感謝申し上げます。

私たち共愛学園も「共に愛する」ということを理念に 140 年、この群馬で学びを創ってまいりました。思いは同じです。しかし、共に愛することは、容易ではありません。むしろ、今、この時を見つめると、虚しさすら覚えます。それでも信じ続けることを止めるわけにはいきません。

IIMS が掲げられている理想と歩みを共にしながら、これからもその活動に思いを寄せてまいりたいと思います。

私が IIMS の存在を知ったのは、2008 年 1 月に参加した多文化交流 in 台湾が最初でした。

学生時代から多文化交流に参加してきて、様々な経験や話のネタ、そしてそこで知り合った多くの友人を得られたことは私の財産です！今後も多文化に関わっていけたら嬉しいです。



小川光明 IIMS 会員



数馬周平 会社員

2014~16 年の多文化群馬スタッフ、16 年の多文化マランの参加者で IIMS に関わらせていただきました。“違いを受け入れる”これを肌で学べたことは一番の財産です。異色だけど年齢問わずタメ語で居心地がいい空気感があり、10 年経った今でもこれからもずっと付き合っていきたい友人に出会えました。この素晴らしい活動に何かしらの形で関わっていきたいと思いますし、これから関わる方もこの空気感を繋いでいってほしいと思います。応援してます！



狩野真由美  
IIMS 副理事長 フリーライター

短大時代、先生が顧問の「大衆文化研究会」というサークルに所属。活動自体が多文化交流でした。その繋がりは今も続いており、有志でオムニバス講座をスタート。コロナ期には多文化交流のスタッフ経験者の協力を得て、オンラインオムニバス講座へと進化しました。今後も臨機応変に多文化交流の輪を拡げて平和な多様化社会に向かいましょう！

コロナ禍で始まった学生生活。外部との繋がりを全て遮断された気分になり、それまで感じたことの無かった孤独に苦しめられていました。

そんな中出逢ったのが、IIMS 所属の学生から構成される SET。「互いを知ることが世界平和に繋がる。」そんなことを考えていていた私にはぴったりの団体でした。

それから学生生活のほとんどを IIMS が主として行っている「多文化交流」に捧げました。韓国にもインドネシアにも行くことができました。今でも仲良くしている友達が沢山できました。大学を卒業し活動から離れた今、改めて多文化交流は唯一無二の居場所だったと実感しています。そんな居場所をくれた IIMS には感謝してもしきれません。



唐沢実里  
会社員

IIMS 設立時から 2021 年 6 月まで監事をやりました。監事とは一般の会社で言えば監査役のようなものです。「特定非営利活動法人」(NPO) を設立しようと太田敬雄理事長が考えた時に、NPO 設立のことを知っている人がいなかったのも多少でも知っている幼馴染の私が手伝いに出て来たという訳です。IIMS は設立時に大学設立を目的の一つにしていました。それも直ちに設立するという目標でした。大学設立の場所も榛名山麓に決まっていた。設立基金の寄付募集を開始しました。だから条件が揃って来た時には私も「手伝い」などと言ってられず、大学の要員として榛名山麓に住むことになるのだらうな、と覚悟していました。

幸か不幸か、大学設立は断念し(中断し)現在に至っています。次の 25 年で大学設立をやるようになった場合は、お手伝いのお手伝い程度のこと、またやりたいです。



木村隆  
IIMS 元監事



これまでの 25 年にも渡る貴研究所の多文化交流のご活動には頭が下がるばかりです。私も似た関心を持っており、大学教育の一環で留学生や日本人学生たちと地域のお寺で多文化共修(=多様な文化を共に学び合う活動)を実施しています。日本における多文化共生は一筋縄ではいきませんので、骨の折れることも多いですが、やはり自分の可能な範囲で無理なく楽しみながら続けることが大事なんだと最近痛感しています。素晴らしいご活動を長年続けられている太田先生や貴団体の皆様のご活動を心より応援いたしております。

清藤隆春 北九州市立大学国際教育交流センター専任講師/東迎寺副住職

IIMS 創立 25 周年の内、多文化交流参加、食事ボランティアや同窓会幹事等、17 年様々な面で IIMS の活動に楽しみながら関わってきました。

長期間継続的にリアルの活動に関わってきた中で、多文化交流に 1 年生で参加してきた人達が OBOG になり、また次に入ってきた人達が新たに盛り上げ次世代に繋げという様子や、幅広い世代の OBOG や現役生が関わり続けている様子、そういった国籍だけでなく、世代も超えた繋がりを幸いにも見続けることができました。この繋がりが自分が参加を始める前からずっと、25 年も培われてきたというのはとても感慨深く感じます。そしてこの良い繋がりが、また次の 25 年、そして更に先へと広がり続いていくことを祈っております。



日下浩樹  
不動産賃貸業  
大学職員



幸田一彦  
元 IIMS 監事

それは 1 本の電話から始まった。「新しい活動始めるから監事やってくれないか」受話器から高校 3 年間お世話になった敬雄先生の声が聞こえた。あれから「大学設立」「認定 NPO 法人設立」・・・有志が集まって、それぞれが描いた夢を託し動き出した

「太田敬雄サークル？」みたいな集まりが、今、地域を巻き込んで広がっている。「オムニバス講座」「多文化交流」「まなばる教育活動」・・・活動の場は民間のみならず公的機関との繋がりへと広がり、参加メンバーは全国・海外にも広がる。研究所は会員諸氏が思っている以上に社会的責任を担う組織となった。今後の四半世紀どう成長していくのか。この 25 年間、書類とにらめっこしながら議論した夜や散歩の途中桑の実を採りながら「これから」を話した時が最も懐かしく大切な時間である。

2019 年に家族多文化交流に子供達と参加させていただきました。インドネシアを訪れるのもイスラム教の文化に触れる事も初めてで滞在中は刺激の多い毎日だった事を覚えています。また、多文化交流をきっかけに日本の高校からインドネシアの小学校に絵本を寄付させていただき交流する事ができました。高校生にとっても貴重な経験になったと思います。これからも年齢に関係なく、たくさんの方々が異文化に触れ、交流の機会を持つことを心から願っています。

齋藤野乃 音楽講師



IIMS との出会いは専門学校 1 年生の夏休みでした。高校時代の英語教師だった太田琢雄先生から、原市教室の片付けから始まったまなばる開拓の手伝いを頼まれたのがきっかけです。専門学校卒業後もまなばるに関わり続け、今ではスタッフとなっています。ちょっと不思議なきっかけですが、25 周年のうち 15 年程携わらせてもらっていることに驚きました。これからも、スーパー雑用係として応援し続けたいです。

(この原稿は多文化マランへ向かうフライト、太平洋上空で書いてみました！)

松原雄斗 IIMS & まなばるスタッフ  
多文化交流コーディネーター

最近、教育が「狭育」になってしまっていないだろうか。親や教師など大人が狭い価値観の中で生き、自分（の考え）とは違うものを否定し排除する。その結果、それを間近で見ている子供・生徒が自分目線でしか物事を見られないようになる……そんなケースをよく目にしたり耳にしたりする。

どんどん物の見方が狭くなってきている今の世の中にこそ、「違いがあってよい」「違いがあるからよい」という考え方が必要だ。IIMS の活動はその狭育を本当の意味の教育に戻すものなのだと思う。色々な枠を超えて、人種・文化・国を超えて、お互い受け入れ合える機会を提供してくれる IIMS。これからも変わらず輝き続けてほしい。



齋藤正幸  
敬和学園高等学校  
(英語科)



渋谷和代

「国際比較文化研究所」どうしても短大のサークル名を思い出してしまうのです。ちょっと似ていて。大きな心で皆を包んで、少し離れて見守っている……その太田先生が作られた場所。世界には違う文化や意識があるということを知りたくて。アラフィフの私も知らないことは、まだまだたくさんあるから学び続けたい。「皆違っていい」世界平和への第一歩を、群馬県からブレずに発信している IIMS をずっと応援しています。

IIMS 理事 アロマ講師

太田先生がインドネシアのマランを初めて訪問されたのは、2004 年だったと記憶しています。大学や街を見学されて、「ここで多文化交流をぜひ開催したい」とおっしゃいました。はて、なぜここで？と私は思いました。それから 20 年を経て、今年もマラ多文化交流を実施しています。太田先生の直感は、大当たりだったと思います(直感だったと私は勝手に思っています)。25 歳のスタッフがホストファミリーとのミーティングで、「IIMS は世界の平和のためにこの活動をしています」と、サラッと語っていました。ぐんまからインドネシアへ、旧世代から新世代へ、この基本理念が伝わっていきます。一度参加するとその意味がよくわかります。



菅ヶ谷マコ  
多文化交流 in マラン  
コーディネーター



巢山史枝

元 財団法人  
ラゴ国際交流センター会員

玉川学園同期の太田さんが「多文化交流」をスタートさせて、若者達の友達の輪と平和を広げていらしたことは本当に嬉しく、誇りに思います。私も「ラボ・パーティ」を通して、「一つしかない地球」を大切に、十代から国際交流プログラムで海外に友達をつくる活動を 35 年やってきました。

太田さんとの共通体験を思い返して見ますと、数号前の「鷲の宮卓話」の「労作教育」では無いでしょうか。私たち高校生はクラスでやりたい事を提案し、生徒会で選んで揉んで予算を工夫して自分たちで実行しました。バレーコートを作ったり、植林したり、田植えや稲刈り等、目標と仲間と一緒に楽しくできました。そして、その仲間は今も、心の絆で結ばれていて、互いに幸せを祈り合っているのです。

元 ラブ・チューター (株) ラゴ教育センター

2014 年に東京から安中に引っ越してから割と早くに太田敬雄先生から声をかけられ、IIMS に関わるようになってから 10 年ほど経ちました。大学で国際政治学を学び、豪州でワーキングホリデーを経験し、将来は国際関係の仕事をしたかったと思いましたが、思いがけなく牧師の道を歩むことになりました。けれども、太田敬雄先生を通し、国際交流に関わる機会を IIMS からいただき、とても感謝しています。

安中から神戸を経て高松へ移り、距離は遠くなりましたが、IIMS に関わる学生・スタッフの皆さんが互いの違いを認め合い、尊重し、それぞれの個性や賜物(タレント)を発揮して平和な世界造りに貢献できるよう、祈り、応援しています。



關橋賢  
IIMS 理事  
屋島教会牧師



高間咲輝  
SET 共同リーダー

私は IIMS にたくさんのものをもらいました。最初はこれが自分にとって良い経験となるのか半信半疑で始めた IIMS 主催のイベント、多文化交流 in ぐんまのスタッフも気が付けば 5 回経験し、今では私の大切な居場所となっています。多文化交流をはじめとする IIMS は私の大学生活を文字通りカラフルにしてくれました。そんな IIMS で出会った友達は私の一生の宝物です。今では、SET のリーダーとして他の人に IIMS の魅力を伝えられる立場にいることを本当に誇りに思っています。IIMS の 25 年という年月の中で考えるとこれまで私が関わった期間は短いですが、これからはその歴史の一部に末永く関わらせていただければ、と思います。

IIMS25周年、おめでとうございます。イベントの説明会で本学に来てくださる学生スタッフのみなさんが、心から楽しそうにイベントやIIMSのことを紹介してくださいます。

顔ぶれが変わっても、代々そんな素敵な学生スタッフさんがいらっしゃるIIMSに感動し、そっと見守らせていただいております。

新島学園短期大学 副学長／教授



高山有紀

太田先生の多文化交流イベントや国際比較文化研究所について知ったのは、2012年6月に岡山で開催された日本比較文化研究学会の全国大会でのことでした。異文化交流ではなく多文化交流というのが、大変、素晴らしい視点だと思ったのを覚えています。その後、「多文化交流 in プサン」に、前任校の担任クラスの学生が参加させて頂きました。参加した学生達が帰国後、「素晴らしい体験ができた」と嬉々として話してくれ、その姿を見て、私も楽しい気持ちを共有することができました。以来、陰ながらIIMSの活動を応援しております。機会がありましたら、また、教え子がお世話になるかも知れませんが、その際はどうぞ宜しくお願い致します。

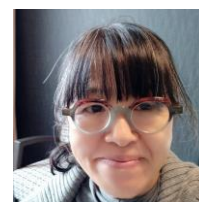
福岡工業大学短期大学部・准教授



橋本恵子

なんと四半世紀に至る太田先生の一貫した「平和」の実践！

「みんながって、へいわなせかい」はとても重い言葉だ。簡単には実現しない。それどころか分断社会の今日は「皆違って、平和な世界（自分だけ）」の方向に行ってしまうようだ。だけど私はこの難題のシンプルな解決策を知ってしまった、太田先生との出会いから！25年前と比べて、もっと世の中が悪くなっているじゃないか？と悲観的になるべからず。私には希望がある。平和は下からじわじわ広がっていくと信じている。先生の教えは、暗い夜道にも更に輝きを増して皆を照らしている。



千木良和子

フランス在住

オムニバス講座参加



根岸大輔 農家  
多文化ぐんま代表  
多文化マラン引率

今になって思うと、研究所と出会うのは必然だったのかなと思います。大学の講義前に聞いた、海外に行く目的が「友達に会いに行く」に変わるという言葉は今も忘れられません。そしてその時にいいなあと思っていた私でしたが、今では会いに行きたい友達、国がたくさんできました。

今の私の価値観はほとんど研究所の方々と出会えたからこそできたのだと断言できます。大人になってもこうして変わらず心の奥底に変わらない価値観を得られたことがとても大きな喜びです。もっともっと友達の輪を広げていけるように。この気持ちを大切にしながら日々生活したいです。

創立当初は、高崎の公民館などでの勉強会や講演会が懐かしく思い出されます。今では、多文化交流やオムニバス講座などが行われていますが、「違いを受け入れ合い、平和な世界を目指す」という根っこは変わらず、時代に合った変化をし続けてきたこと、本当に素晴らしいと感じています。

さて、私は小学校の教員をしております。「隣席の子と自分の違いを理解して受け入れ、互いを思いやることができる。」これは、いつも私が学級経営をする上で心がけていることです。これから成長していく子どもたちが、揺るがない根っこをしっかり広げ、太い幹を作っていってくれることを願っています。

私の教え子たちが、この研究所でお世話になる日が来ることも期待しつつ、これからも変化し続けるであろう研究所の益々の発展をお祈りしています。



野口紀子

元IIMS 副理事長



박주형  
(パクジュヒョン)

IIMSの創立から25年、その半分を共に歩むことができたことここから感謝しています。発展していく世界の中で、環境と文化の違いによる誤解が大きくなってきており、今後はさらにひどくなるでしょう。

その中で「多様性を尊重し、違いを受け入れ合う社会を目指す」平和の心を伝えてきたIIMSのこれまでの25年は足場を作り、柱を立てて屋根を上げる期間でした。そして、これからの25年は作られたIIMSの上で、平和の心がより多くの人々に広がり、刻印する時間になると思います。この大きな流れの一端に関われることを誇りに思うとともに、これからの歩みも皆と共に進めることを楽しみにしています。 〈2014年からの多文化参加者〉

IIMS と聞くと、多文化交流を通じて知り合った友人達の顔が思い浮かびます。私が IIMS と出会ったのは、今から 20 年ほど前になるかと思います。と言っても当時の私は、韓国の多文化交流もインドネシアのものも参加したことがなく、冬の群馬県内での交流会に 1 回参加しただけでした。たったそれだけでも、私の世界は大きく広がったのを覚えています。私にも何かできないかと思い、2014 年にはアメリカで一度多文化交流を企画・実施にも関わらせて頂きました。現在、在米中で、なかなか大々的に関わることができておりませんが、Facebook で新しい世代が IIMS イズムを受け継ぎ、さらに発展させているのを見ると嬉しく思っています。これからの 25 周年も更に大きく羽ばたいてくれることを期待し、そしていつかは第 2 弾のアメリカ多文化交流ができるよう私も頑張りたいと思います。



ハフナー奈緒美  
大学教員

学生時代に純粋に人として知り合うことの尊さを実感させてくれた多文化交流。

研究所の活動が、そのシンプルだけど本質的な喜びを多くの人に届けるものであると確信しています。

現在は私自身が異国で外国人になり、様々な出来事に直面しています。不安になる事が多い世の中ですが、そんなときこそ友人たちと手をつなぎたいものです。



ファン翠



福崎結子 専業主婦

私が太田先生と出会ったのは、今から 20 年程前の大学生。

日本語だけ話せば良いから年明けに海外へ行って遊ぶぞ！と年末に言われ、その場で申込をした初めての多文化 in 台湾でした。ただの旅行では味わえない人と人との繋がりがとても心地良く、旅のお別れの時に涙を流してしまうのは、短時間で濃い時間をお互い過ごしてきた証だったからでしょう。

たくさんの方が繋いできた 25 年間の多文化交流 これからもたくさんの人に出会いが届きますように♡



福田則行  
IIMS 監事

多文化交流で、ホストファミリーになった時の出来事。父は学生達に、友人と戦争したいと思うか尋ねました。続けて父は、もしも今、君達に何かあったら、例え相手が日本人でも、君たちを「我が子」として守るために戦うと言いました。戦争経験がない世代でも、先入観や誤解が存在します。そのような世の中で相互理解を実践する事は、簡単ではありません。向き合っても解決しない苦しさを伴うものもあります。それでも、お互いの表情をみて、感情や経験も込めて繰り返し言葉をかわせば、可能性は広がります。お互いが大切にしているものを感じ取り、友となることを目指す多文化交流は、かけがいのないものだと思います。



松香洋子  
MPI 松香フォニックス  
名誉会長

毎号 Newsletter を読ませていただいています。インドネシアの学生さんやら、サポート隊の皆様やら、素晴らしい実戦ですね。ホームステイの皆様もいいことをいうし、素晴らしいですね。群馬での交流もたった 2 泊三日で親しくなって一生の喜び、とみなさん言ってます。あまりに皆様が嬉しそうなので、こちらまで嬉しくなります。わずか 25 年の年月の中でこんなことが出来ている国際比較文化研究所はすごい団体です。いいことしていますね。

2010 年から行われている「多文化交流 in 韓国・プサン」は 2025 年で 16 年目となります。コロナ禍でもオンラインでの交流を行いながら途絶えることなく続けて来られたのも、参加者たちの「繋がりたい」という強い気持ちと、これまでの参加者たちの深い繋がりがあってこそのことだと思います。今後も国や文化、ことば、世代など、様々な違いを越えて、人と人とが温かい思いやりの心で繋がり、友情の輪が広がっていくことを願っています。



三國喜保子  
釜山外国語大学助教授



山本貴彦  
第 1 回多文化ぐんま  
参加者

約 20 年前、IIMS 主催の多文化交流事業に参加し、日韓中の同世代と交流を深めた経験は、何にも代えがたい温かな記憶として、今も自身の根幹を支える大きな柱となっています。その経験は、自信を育むとともに考えを深め、多角的な視点と高い視座を持つことの大切さのひとつのきっかけを与えてくれました。そのような気づきを与えてくれる IIMS に感謝しています。現在、多様性という言葉がメディアで頻繁に取り上げられ SNS が広く普及する中で、個々人が「正しい情報」を取捨選択する力がますます重要になっていると感じます。年齢を重ねた今だからこそ「何を信じるか」「どのような信念に基づいて行動するか」を真摯に問い続け、若い世代に負けないよう、これからも自分自身のアンテナを研ぎ澄ませていきたいと考えています。

皆様のご支援が  
世界平和の架け橋に。

「多文化交流」は皆様からいただく  
寄付・会費に支えられて  
この活動を継続できています。

### ▼ご寄付及び会費納付先▼

—お力添えいただければ幸いです—

#### 【クレジットカードによる手続き】

下記 QR コード、もしくは IIMS のホームページからアクセスして頂き手続き・ご登録ください。



研究所 (IIMS) のホームページ  
<https://iims-japan.org/>

#### 【振込用紙によるお振込み】

郵便振替口座：加入者名 国際比較文化研究所  
口座番号 00510-0-61974

銀行への振込：群馬銀行 安中支店 普通預金  
口座番号 0958657

加入者 (トクヒ) コクサイヒカクブンカケンキュウジョ

メールでニューズレターをお送りしている方々には振込用紙をお届けできません。特に会費の請求はお送りしておりませんが、郵便局の振込用紙、群馬銀行の口座、もしくはカードでお振込みください。ニューズレター郵送先には振替用紙を同封しています。これは請求書では有りません。

大勢の皆様の会費やご寄付に支えられて今年も活動を発展させています。有難うございます。  
ご入会状況/会費・寄付振込 (24.10.21) カード振込 (24.10.1.~25.2.28.)

学生会員入会：塩谷万葉、小泉美咲、Anak Agung Gede Krisn、Jun

正会員会費：福崎結子

賛助会費：佐俣由香、前田浩、杉浦翔太

一般寄付：川口知幸、坪井教由・明子、イエスの友会、岩本松江、村井田和夫、佐俣由香、前田浩

毎月寄付：樋本達之、根岸大輔、Rosdiana Febrianti、藤本恵大、内野春香、片岡謙、吉田理沙

訂正：9・10月号でまなばる寄付と掲載しました松香洋子さんのご寄付は一般寄付の間違いでしたのでここに訂正させていただきます。

編集後記：☆今年度最後の Newsletter です。

☆10月になり郵送料が高くなりました。これまで4ページが上限だったのですが、8ページまでは同料金で送れることになり、今回の企画が可能になりました！

☆そろそろ印刷に入ろうかという段階で嬉しいニュースが入ってきました。P.6に感想を寄せて下さった高山有紀先生がこの度新島学園短期大学の新学長になられる事が発表されました。おめでとうございます。

☆皆様の感想の追加を次号に掲載します。(敬)

発行：特定非営利活動法人国際比較文化研究所

事務所：379-0124 群馬県安中市鷺宮 3413-3

電話：027-382-5998 FAX:027-382-6393

研究所 HP：<https://iims-japan.org>

メールアドレス：[iims.since2000@gmail.com](mailto:iims.since2000@gmail.com)

まなばる HP：<https://manapal.jp>

メールアドレス：[mail@manapal.jp](mailto:mail@manapal.jp)